

3. Sustainable Radiology/ Green Radiology

—世界の潮流と日本医学放射線学会の取り組み

相田 典子

神奈川県立こども医療センター放射線科/横浜市立大学放射線診断科/
日本医学放射線学会 Sustainable Radiology 委員会委員長

筆者にとって、1年半くらい前までは Sustainable Radiology あるいは Green Radiology (2つはほぼ同義) なるものは、用語は聞いたことがあっても現実的にはあまり真剣に考えたことのない領域であった。それが一変したのが、日本医学放射線学会 (JRS) の理事会メンバーとして参加した 2024 年 10 月の R7 Radiology 2024 であった。この会は、G7 参加国 (米国、イギリス、イタリア、カナダ、ドイツ、フランス、日本と欧州連合 (EU)) の放射線学会の会長 / 理事長を含む 3 名が代表として、各国共通の放射線医学の課題について討議する目的で集まるもので、イタリア放射線学会会長の発案により、今回の第1回 R7 Radiology がベネチアで開催

された¹⁾。会期前日のイベントの後、2 日半にわたってさまざまな課題について基調講演と討議が行われたが、その中のメイントピックスであったのが Sustainable Radiology であり、各国の真剣さに圧倒されたのがきっかけとなった。筆者個人だけでなく、参加メンバー全員が各国に比べてわが国の放射線医学の sustainability に対する対応が遅れていると痛感し、JRS で Sustainable Radiology 委員会 (2025 年 1 月に理事会で設立承認) を立ち上げるきっかけとなった。

最近の国際学会での Sustainable Radiology/ Green Radiology 関係の 取り組み

第 110 回北米放射線学会 (RSNA 2024) では、少なくとも 36 題の Sustainable Radiology 関係の発表あるいは講演が行われた。内容は、エネルギー効率、教育、組織的取り組み、技術、廃棄物管理、環境リスク、公衆衛生から社会的観点まで多岐にわたっていた。Japan Radiology Congress (JRC) 2025 では、初めて Sustainable Radiology 関連の合同シンポジウムが行われ画期的であったが、いまだ JRS の学術集会では一般演題や教育講演のテーマにないことを考えると、違いは一目瞭然である。また、RSNA では、学術発表だけでなく、学術集会の運営においても多岐にわたる取り組みが行われた。ミーティングバッグは素材の 90% がリサイクルのペットボト

ルから作られており、RSNA ニュースによると、「食品ロスの削減や、会議終了後に残された物資の寄付やリサイクルを目的として、環境への影響を抑え、地元組織との協力を強化するために、新たな試験的な取り組みを導入」とレポートされている。具体的には、地元の非営利団体と提携し、出展者がブースで使用した物品を寄付できるリサイクルプログラムを確立していた(寄付できる物品には、家具や装飾品、未開封の食品などが含まれる)。さらに、電子廃棄物やバッテリーのリサイクルプログラムも導入され、出展者にはスマートフォン、ノートパソコン、プリンタ、バッテリーなどをリサイクルするよう奨励した。もう一つは、非営利団体の調理部門のボランティアが、本来廃棄されるはずだった食品を使って食事を作り、パッケージ化してシカゴ地域の食糧不安を抱える人々に届けていたとのことである。この取り組みにより、「これらの物品が埋立地に送られるのを防ぎ、地域社会に貢献することができる。今後もこの取り組みを拡大していくみたいと考えている」とのコメントが添えられていた²⁾。

2025 年 3 月に行われた European Congress of Radiology 2025 (ECR 2025) は、メインテーマが Planet Radiology であり、大会のポスターそのものが Sustainable Radiology を推進する強い意志を表している^{3)~5)}(図 1)。Web サイトによる報告でも、環境配慮型の取り組みが大きく前進したと記載されていた。具体的には、鉄道会社との提携に



図 1 ECR 2025 のポスター

(The ECR 2025 congress poster ESR : https://healthcare-in-europe.com/media/story_section_text/39906/image-01-ecr2025-poster-rgb_@2x.jpg)